

車いす上の日常生活の活動評価で介護を支援

国際生活機能分類を評価指標としたシステム技術

- 車いすからの転落等の防止・警報システムの開発
- モニタリング情報と生活機能分類とを組合わせた介護サービスの提案
- 日常的な生活に対するケアマネジメント情報支援サービスの提案

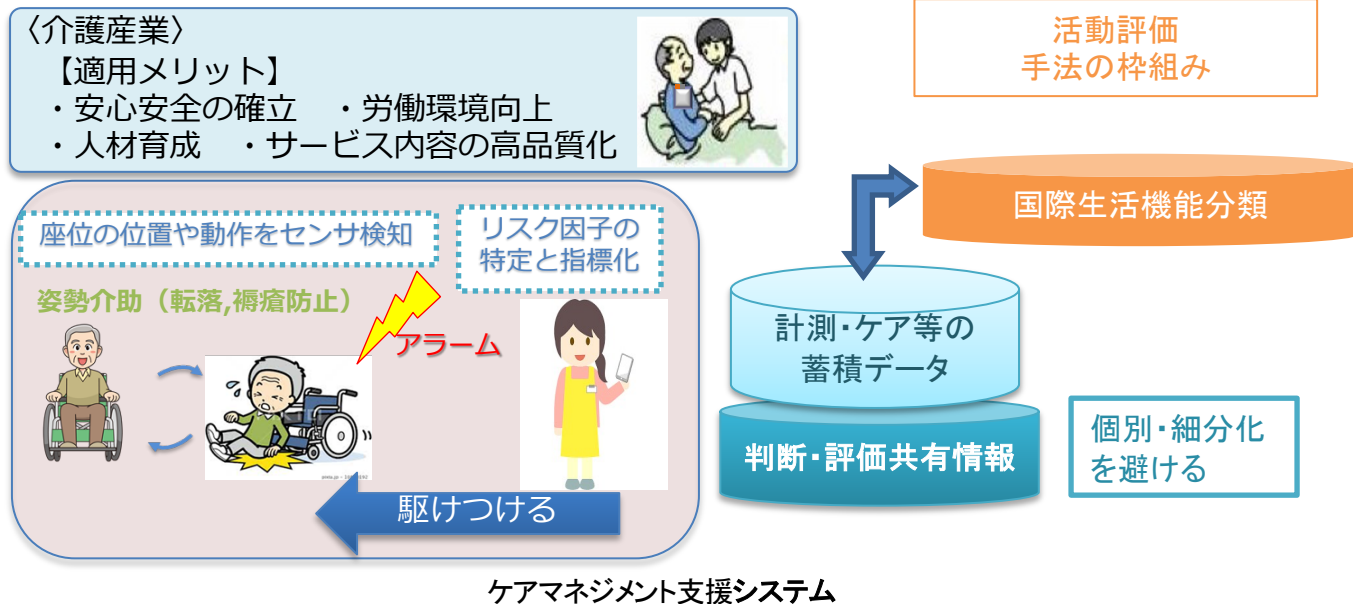
研究目的・内容

日常的に車いすを利用する障がい者や高齢者の身体的特徴としては、加齢による身体機能の低下や正しい姿勢への回復動作の衰えなどが挙げられます。このような事象情報を蓄積・評価し、介護支援者への負担軽減に配慮した情報共有型介護支援システムの開発が期待されています。本研究では、着座位置や姿勢動作をモニタリングできる計測機器を用いて、車いすからの転落等の防止・警報する機能を備えた見守り支援システムの構築に取り組んでいます。また、車いす上での過ごし方をモニタリングするために、国際生活機能分類を評価指標として導入した介護支援システムについて検討しています。

将来への技術展開

国際生活機能分類と車いす利用者の着座位置や姿勢動作のセンシング技術を統合化したモニタリング情報により、介護・高齢者施設等におけるケアマネジメントへの支援・向上にむけたシステム開発が期待できます。また、計測情報と介護記録を共通プラットフォームとして共有化に向けた展開も可能です。

連携可能な技術・知財 着座位置や動作の計測器の試作、車いす上での日常生活の活動評価システムの試作



大阪産業技術研究所

製品信頼性研究部(和泉センター)

袖岡 孝好

連絡先：和泉センター技術相談窓口 <http://tri-osaka.jp/tri24c.html>

